

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100175		
法人名	社会福祉法人フィロス		
事業所名	グループホーム フィロスみなと 5階		
所在地	名古屋市港区名港1丁目6番1号		
自己評価作成日	平成28年10月6日	評価結果市町村受理日	平成29年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvsovcD=2391100175-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成28年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣にある神社への散歩が日課となっている。そのため午前中に神社へのお参りをしたりラジオ体操などを行い午後からはタオル体操の時間と作品作りなどのレクリエーションを実施している。また、昼食作りや盛り付け、片づけなどの家事活動も日常的に行われている。フロア内には季節に沿った飾り付けとともに行事に参加されている利用者の写真なども掲示されており、時にはその写真を見ながら話をしたりしている。また、複合施設のため他の事業者と一緒に行事なども行い参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名古屋港水族館に近く、マンションなどが多く建ち並ぶ中に事業所が位置している。特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所が併設された複合型施設の5階、6階にグループホームがある。「安心、さわやか、あったか空間」を理念に、その人なりの生活スタイルを大切に支援していくために、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。開設3年目であるが地域との繋がりを深め、歴史ある名古屋みなと祭りには毎年地域から要請があり職員は祭りの担い手として積極的に参加したり、入居者と共に祭りを楽しんでいる。移動販売車の場所を提供し地域の方が気軽に立ち寄り、買い物を通して入居者との交流を図っている。事業所主催の祭りには、地域の方も大勢参加し賑いを見せている。四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、外食などを一緒に楽しむ機会を継続することが入居者の励みや笑顔の源となっており、出向くことで地域との絆もさらに高められている。昼食は、それぞれのフロアで献立を考え、職員と一緒に食事を作り、テーブルを囲んで美味しく食している。共同空間や居室は、開放的で四方の見晴らしが良く明るい空間となっている。大人の雰囲気や落ち着いた環境の中で、一緒にゲームをしたり、テレビを見たり、職員とお喋りをして楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は事務所と職員更衣室に貼ってあり職員が仕事に関わる前後に目につくようにしている。	理念である「安心、さわやか、あったか空間」について、全職員が集まる全体会議やフロア会議で話し合い、振り返りを行っている。日常支援の中で、意識を高めながら理念に基づいた声掛けやケアに心がけている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の理事や地元に住んでいる職員から地域の情報を得て地域の行事に見学に行ったり近隣の神社が散歩コースとなっている。	町内会に加入しており、歴史ある名古屋みなと祭りには毎年地域から要請があり、職員は祭りの担い手として積極的に参加している。高校生や傾聴ボランティアなどの受け入れや幼稚園児との交流などを行っている。月2回移動販売車の場所を提供して、地域の方が気軽に立ち寄り、入居者と交流を図っている。事業所の祭りには、地域の方も大勢参加し賑いを見せている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月2回実施している移動販売や施設内の行事には地域の方々にも参加いただいたり、運営推進会議には地域の自治会長や民生委員の参加もいただき活動の報告をしている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設で実施した行事などの報告を行うとともに今後、実施する予定の行事についても話し、取り組んでほしい行事についても話合っている。	家族代表や町内会長、民生委員、いきいき支援センター職員の参加を得て、複合施設合同の推進会議を行っている。定例報告や活動報告の他に、認知症の理解を深める話などもを行っている。今後は多くの家族参加が可能になる様、開催案内などの工夫を行っていきたくと考えている。	家族に運営推進会議の案内を出して参加を呼び掛けたり、参加できなかった家族に、会議の内容を配布するなどをして周知し、より多くの家族が参加できるような取り組みを期待したい。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議にいきいき支援センターの職員が参加している。また、いきいき支援センターや区役所の保護係りやと連絡・相談を行い関係性を築けるようにしている。	介護保険代行申請や、保護課との連携を図り、空き情報や事業所の報告を行うなど協力関係は築かれている。認知症サポーター講座の講師依頼や介護の日に開催される名古屋市作品展に作品を出品し「特別賞」を受賞するなど関わりは積極的である。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアのドアや玄関は施錠しておらず、また月1回身体拘束や虐待などについて委員会を行っており職員の理解が深まるようにしている。	施設内の施錠は行っていないが、安全のため非常階段兼職員通用出入り口は暗証番号ロックとなっている。運営推進会議や毎月の身体拘束防止委員会で課題を上げ、拘束や虐待について勉強会を実施し、意識を高めている。新人には研修を実施している。スピーチロックに配慮したり、束縛感のない環境作りに努めている。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の委員会身近に感じられる具体的な例を挙げて話し、参考資料なども参照しながら虐待にあてはまらないように努めている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を利用している利用者はいないが後見人制度を利用している人はいる。職員の理解については個人差がある。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にホームの見学や相談など行い契約の締結時に文章と口頭で契約書と重要事項の説明して、わかりにくい表現の所はわかりやすく話をしている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情相談窓口を設置したり家族や利用者から要望があった場合は管理者やリーダーがまとめて職員間などで話し合い対応に努めている。	入居者の意見や要望は日々の関わりから聞き取っている。家族には行事や面会時に聞いたり、電話連絡や毎月出している手書きの手紙を送る事で、家族の安心を得ている。意見や要望は記録に残し、フロア会議で話し合いケアに繋げている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や普段の会話から職員からの要望がある場合はリーダー会議で話あったりまた、全体会議で施設長に意見を求めて検討したりしている。	職員からの意見や要望はリーダー会議で話し合ったり、直接管理者と話しあう機会を作る様にしている。年に1度の全体会議開催時に、施設長と直接話す機会もある。職員のスキル向上を目指し、希望や意見を聞きながら内部、外部研修に参加している。	職員との定期的な個人面談やアンケートなどを実施し、職員の意見や提案などを聞き取る機会を明確に設け、出された意見や提案に、真摯に向き合い運営に反映させていくことを期待したい。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職や保有資格に応じた給料制度を設けており、資格支援制度を設けて職員が各目標に向けてまい進できるようにしている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回勉強会を設けており外部研修を浮けてきた職員が講師となり他の職員に伝えたり、外部からの講師を招いての研修会を実施したりしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームページを開設し、ホームでの情報をネット上に発信している。また、職員は外部の研修を受けることで同業者との交流が図れるように努めている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前のアセスメントで本人や家族の希望や要望、生活習慣など把握するように努めている。また、初期段階では特に個別に本人の話を傾聴するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族や本人が不安に思っている事や要望、将来の事なども含めて話を伺い安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の本人の状況や要望などを伺い、訪問マッサージや医療面での支援など介護保険外のサービスを含め必要なサービスが何かを検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれに行える事は何かを探り職員と一緒にホーム内の事を行う事で関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や知人が時折面会に見えている。ホームでの様子を月1回手紙にして送っている。管理者はホームでの行事や受診など連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限を設けず、古い友人や知人などが気軽に来訪しているが、個々の馴染みの場所へはでかけてはいない。	行きつけの美容室へ行ったり、家族と一緒に法事や墓参りに出かけたりして、今までの馴染みが途切れない様に支援している。また、古い友人や知人が面会に訪れ、旧交を深めている。新しく馴染みとなる場所作りも支援の一つと考え、入居者の好みや興味を聞き、模索をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内での席の配慮や利用それぞれに行えることや興味を持てる事などを行えるようにしている。また、職員は利用者の間にはいるなどして利用者同士の関係作りができるようにしている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の意向があった時には、家族の要望に応じて相談し不安なく移行できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に伺ってあった本人の生活歴や趣味活動、家族の意向などをベースに日々の関わりの中でわかってきた事などから本人をより理解するように努めている。	入居者とお茶を飲みながら、ゆっくりと会話をする環境作りやレクリエーションなどの参加を促して、一人ひとりの思いや意向の収集をしたり、普段と違う一面の発見などを行っている。目の不自由な方は雰囲気を感じ取ってもらったり、スキンシップをして意志の確認を取るようになっている。思いの表出の少ない方には、ボディランゲージなどで察知するようにしている。随時職員間で話し合い、本人の思いに沿えるようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス事業所から得た情報や利用開始からの生活パターンを把握するようにして本人が混乱なく利用できるような努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当制を導入しており利用者一人一人に職員が決まっており日々の関わりや本人との会話から現在の状態の把握に努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングやカンファレンスを行い介護保険更新時や計画書見直しの時に本人やご家族などから要望を伺い、反映できるように努めている。	本人や家族に意向を聞き取って、介護計画に反映させるようにしている。モニタリングは3か月に1度、計画の見直しは6か月毎に実施している。状況に応じて、随時の見直しもしている。協力医からの意見も計画作成に反映している。また、外部からリハビリセラピーが介入している方もおり、入居者の現状に即したプラン作成に努めている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを利用して情報の共有を行っている。また、フロア会議やカンファレンスで話し合うなどしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化がみられた時には本人や家族と相談し、他のサービス利用や通院など対応するように努めている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム近くの神社や公園が散歩コースになっていたり近くの市場へ買い物に行ったりしている。また、複合施設である事を生かして他の事業所に地域のボランティア団体の訪問があると一緒に参加している。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃はホームとの提携医で往診を行っている。専門的な診察が必要になった場合には利用開始前の本人や家族の要望などを踏まえて希望のある専門医に受診するようにしている。	入居時にかかりつけ医、協力医の選択を確認している。専門医を受診する際、状況によっては、職員による通院支援もしている。月2回内科医の受診や訪問歯科の往診があり、歯科衛生士からのケア指導も実施している。受診結果は家族へ電話報告している。併設されている事業所の看護師が毎日巡回し健康チェックを行うなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の受診時や訪問歯科など適切な受診が受けられるようにしており、また併設されている他の事業所の看護師が毎日巡回し健康チェックを行っている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、必要な物を届けたり本人の情報を提供している。管理者は退院後も安心してホームでの生活が継続できるように家族を始め病院関係者と話をする時間を設けている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に将来的な考えもお聞きして複合施設である事を含めて本人の状況の変化がみられた場合など事業所として行える事などお話をし本人や家族の希望にできる限り添えるように職員がチームとして取り組んでいる。	重度化や終末期、看取りについて、事業所として行える支援を入居時に説明を行い、同意を得ている。看取りは行っていないが、将来的な方向性について医師を含め会議で話合っていく予定である。ターミナルケアの内部研修や外部研修に参加し、知識や手技の向上を目指していきたいと考えている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には救急救命の講義を受講させたり、普段の生活の中で急変した場合の対応の仕方など伝えている。また、普段とご様子の違う場合には、併設している他の事業所の看護師に相談し、必要に応じて家族へ連絡し受診の相談をしている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近くに消防署があるため消防員の同行で利用者も参加して避難訓練を行っている。設備の面からも防火扉やスプリンクラーの設置もしている。	施設内は防火扉の設置がある。消防署立会の下に、年2回日中の火災を想定した防災訓練を実施し、避難経路や安全確保の評価や指導を受けている。地域住民との避難訓練や水害訓練について検討している。地域住民の一時避難場所として受け入れは可能であり、備蓄品も各フロアに3日分用意をしているが、地域への周知はしていない。	災害時に事業所として地域に協力してもらいたいこと、事業所として地域にできることなどを運営推進会議等で具体的に話し合う機会を設け、相互に協力体制を整えていくことを期待したい。地形や地域状況を考慮し、夜間想定火災や水害などを想定した訓練の実施も検討していくことを望みたい。

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に応じた対応をするように心掛け排泄介助や普段のケアの場での声かけなど配慮するように話をしている。	入居者との関係性が慣れ合いにならないように職員相互で心配りをしたり、声掛けの仕方にも十分注意をし、本人の気持ちを損なわないようにしている。排泄時必要なパット類は職員のポケットに入れて目につかないようにしたり、プライバシーに配慮してトイレの扉は居間に居る人から見えにくい角度に設計している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中でレクリエーション活動や散歩などへの参加など本人の意思を伺うようにしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や気分を把握するようにして時間を変えるなどし、ご本人の状態や意向に合わせて行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には月1回ホームに来る訪問美容でヘアカットをしたり季節に沿った服装ができるようにしている。また、夏祭り際には浴衣を着用するなどしている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から職員と一緒に食事作りや盛り付け・片づけなど行っており利用者それぞれに役割ができている。また、外食などに時折出かけている。	朝食や夕食は複合施設の厨房で調理された食事を、入居者と共に小皿などへ盛り付けをしている。昼食は各フロアで刻んだり、米を磨いだりなど入居者に手伝って貰って調理している。献立は各フロアで食べたいものを聞き、食事に取り入れている。おやつを買に行ったり、手作りおやつや外食など食べる楽しみを継続させている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人に水分や食事摂取量をチェックしている。また、利用者それぞれに応じた食事形態にして提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の嚥下体操や食後の口腔ケアの声かけや準備を行っている。夜間時には入れ歯を預かり保管している。訪問歯科受診の支援もしている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの能力とともに排泄チェック表を作成し、必要な方には定期的な誘導を行い過剰な介助にならないように努めている。	施設内はトイレの数が多く設置されており、トイレでの排泄支援に心がけている。一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、プライバシーに配慮して適切な支援をしている。排泄チェック表を活用し個人の排泄パターン把握により、布パンツに向上した方もいる。ウオッシュレットと併用して温かい下用タオルで清潔保持を行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の生活の中で散歩や体操を行い排泄や水分摂取量のチェック、食事面でもヨーグルトを取り入れるなどしている。また、併設施設の看護師に相談をしている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日にとらわれず本人の体調や状況に応じて行っている。また、菖蒲湯やゆず湯など季節に沿ったお風呂も実施している。	個室と機械浴が設置されているので身体状況にあった入浴が可能となっている。湯は一人ずつ交換し、入浴時間や曜日にこだわらず、希望に沿って対応できるように心がけている。脱衣所は床暖房の設置もあり、床も滑りにくい材料を使用している。同性介助、季節風呂、入浴剤の使用など気持ちよく入って貰っている。入浴を拒む方には声かけやタイミングの工夫をし、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせた就寝時間に応じているとともに利用者の体調などにも配慮して昼間でも横になれるようにしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に処方された服薬の内容などを併設施設の看護師と確認や相談をしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中では家事活動や作品作り、園芸などに携われるように努めている。また、ホーム全体の行事や併設施設での行事への参加もしている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課として近隣の神社に散歩に行ったりしている。家族の協力で外出も行っている。また、フロアや玄関には鍵はかかっておらず自由に出入りできるようになっている。	日常的に近所の公園や神社に散歩に出かけ、出来るだけ外出できるようになるような支援を行っている。地域の公園で行われる地域の運動会に参加したり、家族や外出ボランティアの協力を得て、ブルーボネットや白鳥公園などに出かけている。お弁当を持って季節の花見などにも出かけている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月2回の移動販売時に好きな物を選んで購入できるようにしている。日課の神社への散歩の時にお賽銭をあげたりお金を所持している方は買い物などで使用できるように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などへの手紙や電話などご希望があれば対応するようにしている。年賀状は利用者が自ら書いて出せるように支援している。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はフロアにある大きな窓から外の景色を時折眺めて、のんびりとくつろいでいたりする。また利用者と職員が一緒に作った季節ごとの手作りの作品がフロア内に飾られている。	共同空間は動線が分かりやすく、開放的で四方の見晴らしが良く明るい空間となっている。フロアが広く開放的で、ソファスペースや食事スペース、キッチンなどの空間が十分に確保されている為、レクリエーションなどが安心して実施される。絵画や落ち着いた調度品、入居者の作品が飾られており、大人の雰囲気が漂う落ち着いた環境となっている。施設は開設3年目を迎えるが、設備が整い清潔に保たれている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内でのテーブル席の他にソファを設置してゆったりと利用者同士が話しながら過ごせるようにしている。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時や利用中などに家族や本人と相談して自宅で使用している物や好きな物を持ってきてもらったりしている。時にはフロアに飾ったりしている。	居室のベット、エアコンは備え付けで有るが、タンスや鏡など馴染みの物を持参して安心できるスペースや環境作りをしている。仏壇を持ち込まれた方や、御神酒を毎日欠かさず挙げ、本人が自宅と変わらず安心して生活が送れるような支援を行っている。掃除は職員と入居者で実施し、清潔を保っている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており廊下には手すりを取り付けられている。また、ドアは引き戸になっており、利用者自身が自ら開け閉めできるように配慮されている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100175		
法人名	社会福祉法人フィロス		
事業所名	グループホームフィロスみなと 6階		
所在地	名古屋市長区名港1丁目6番1号		
自己評価作成日	平成28年9月	評価結果市町村受理日	平成29年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Jigvovocd=2391100175-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成28年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロアにある大きな窓からは近隣にある神社がみえており、また居室によっては窓から地域の祭りの花火が見える。散歩ではホーム近くにある公園へ出かけたり午前中にラジオ体操を行っている。フロア内では、利用者の話し声と共に職員の声も交わり笑い声なども聞こえてくる利用者と職員の区別なく過ごしている。また、食事の盛り付けや洗濯量など家事活動も利用者それぞれに応じた役割を持って日常的を送っている。また、複合施設なためほかの事業所で実施されている行事にも参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名古屋港水族館に近く、マンションなどが多く建ち並ぶ中に事業所が位置している。、特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所が併設された複合型施設の5階、6階にグループホームがある。「安心、さわやか、あったか空間」を理念に、その人なりの生活スタイルを大切にしたい支援をしていくために、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。開設3年目であるが地域との繋がりを深め、歴史ある名古屋みなと祭りには毎年地域から要請があり職員は祭りの担い手として積極的に参加したり、入居者と共に祭りを楽しんでいる。移動販売車の場所を提供し地域の方が気軽に立ち寄り、買い物を通して入居者との交流を図っている。事業所主催の祭りには、地域の方も大勢参加し賑いを見せている。四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、外食などを一緒に楽しむ機会を継続することが入居者の励みや笑顔の源となっており、出向くことで地域との絆もさらに高められている。昼食は、それぞれのフロアで献立を考え、職員と一緒に食事を作り、テーブルを囲んで美味しく食している。共同空間や居室は、開放的で四方の見晴らしが良く明るい空間となっている。大人の雰囲気や落ち着いた環境の中で、一緒にゲームをしたり、テレビを見たり、職員とお喋りをして楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 2391100175					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は事務所と職員更衣室に貼ってあり職員が仕事に関わる前後に目につくようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の理事や地元に住んでいる職員から地域の情報を得て地域の行事に見学に行ったり近隣の神社が散歩コースとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月2回実施している移動販売や施設内の行事には地域の方々にも参加いただいたり、運営推進会議には地域の自治会長や民生委員の参加もいただき活動の報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設で実施した行事などの報告を行うとともに今後、実施する予定の行事についてもお話しし、取り組んでほしい行事についても話合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議にいきいき支援センターの職員が参加している。また、いきいき支援センターや区役所の保護係りやと連絡・相談を行い関係性を築けるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアのドアや玄関は施錠しておらず、また月1回身体拘束や虐待などについて委員会を行っており職員の理解が深まるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の委員会で身近に感じられる具体的な例を挙げて話し合い、参考資料なども参照しながら虐待にあてはまらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護や後見人制度を利用している利用者はいない。職員の理解については個人差がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にホームの見学や相談など行い契約の締結時に文章と口頭で契約書と重要事項の説明して、わかりにくい表現の所はわかりやすく話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情相談窓口を設置したり家族や利用者から要望があった場合は管理者やリーダーがまとめて職員間などで話し合い対応に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や普段の会話から職員からの要望がある場合はリーダー会議で話あったりまた、全体会議で施設長に意見を求めて検討したりしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職や保有資格に応じた給料制度を設けており、資格支援制度を設けて職員が各目標に向けてまい進できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回勉強会を設けており外部研修を浮けてきた職員が講師となり他の職員に伝えたり、外部からの講師を招いての研修会を実施したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームページを開設し、ホームでの情報をネット上に発信している。また、職員は外部の研修を受けることで同業者との交流が図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前のアセスメントで本人や家族の希望や要望、生活習慣など把握するように努めている。また、初期段階では特に個別に本人の話を傾聴するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族や本人が不安に思っている事や要望、将来の事なども含めて話を伺い安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の本人の状況や要望などを伺い、訪問マッサージや医療面での支援など介護保険外のサービスを含め必要なサービスが何かを検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれに行える事は何かを探り職員と一緒にホーム内の事を行う事で関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や知人が時折面会に見えている。ホームでの様子を月1回手紙にして送っている。管理者はホームでの行事や受診など連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限を設けず、家族が気軽に来訪しているが、個々の馴染みの場所へはでかけてはいない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内での席の配慮や利用それぞれに行えることや興味が持てる事などを行えるようにしている。また、職員は利用者の間にはいるなどして利用者同士の関係作りができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の意向があった時には、家族の要望に応じて相談し不安なく移行できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に伺ってあった本人の生活歴や趣味活動、家族の意向などをベースに日々の関わりの中でわかってきた事などから本人をより理解するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス事業所から得た情報や利用開始からの生活パターンを把握するようにして本人が混乱なく利用できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当制を導入しており利用者一人一人に職員が決まっており日々の関わりや本人との会話から現在の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングやカンファレンスを行い介護保険更新時や計画書見直しの時に本人やご家族などから要望を伺い、反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを利用して情報の共有を行っている。また、フロア会議やカンファレンスで話し合うなどしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化がみられた時には本人や家族と相談し、他のサービス利用や通院など対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム近くの神社や公園が散歩コースになっていたり近くの市場へ買い物に行ったりしている。また、複合施設である事を生かして他の事業所に地域のボランティア団体の訪問があると一緒に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始時に本人や家族からの要望に応じて専門医の継続した受診を支援して日頃はホームとの提携医で専門的な診察は専門医と合わせて活用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の受診時や訪問歯科など適切な受診が受けられるようにしており、また併設されている他の事業所の看護師が毎日巡回し健康チェックを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、必要な物を届けたり本人の情報を提供している。管理者は退院後も安心してホームでの生活が継続できるように家族を始め病院関係者と話をする時間を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に将来的な考えもお聞きして複合施設である事を含めて本人の状況の変化がみられた場合など事業所として行える事などお話をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には救急救命の講義を受講させたり、普段の生活の中で急変した場合の対応の仕方など伝えている。また、普段とご様子の違う場合には、併設している他の事業所の看護師に相談し、必要に応じて家族へ連絡し受診の相談をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近くに消防署があるため消防員の同行で避難訓練を年に1回行っている。設備の面からも防火扉やスプリンクラーの設置もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に応じた対応をするように心掛け排泄介助や普段のケアの場での声かけなど配慮するように話をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中でレクリエーション活動や散歩などへの参加など本人の意思を伺うようにし、またその内容を家族への手紙に記載するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や気分を把握するようにして時間を変えるなどし、ご本人の状態や意向に合わせて行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には月1回ホームに来る訪問美容でヘアカットをしたり季節に沿った服装ができるようにしている。また、行事の際には浴衣を着用するなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から職員と一緒に食事作りや盛り付け・片づけなど行っており利用者それぞれの能力に応じた役割ができています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人に水分や食事摂取量をチェックしている。また、利用者それぞれに応じた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の嚥下体操や食後の口腔ケアの声かけや準備を行っている。夜間時には入れ歯を預かり保管している。訪問歯科受診の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの能力とともに排泄チェック表を作成し、必要な方には定期的な誘導を行い過剰な介助にならないように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の生活の中で散歩や体操を行い排泄や水分摂取量のチェック、食事面でもヨーグルトを取り入れるなどしている。また、併設施設の看護師に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日にとらわれず本人の体調や状況に応じて行っている。また、菖蒲湯やゆず湯など季節に沿ったお風呂も実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせた就寝時間に応じているとともに利用者の体調などにも配慮して昼間でも横になれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に処方された服薬の内容などを併設施設の看護師と確認や相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中では家事活動やボール遊びなどに携われるように努めている。また、ホーム全体の行事や併設施設での行事への参加もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課として近隣の神社に散歩に行ったりしている。家族の協力で外出も行っている。また、フロアや玄関には鍵はかかっておらず自由に出入りできるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月2回の移動販売時に好きな物を選んで購入できるようにしている。近くの商店へ職員と一緒に出掛けて買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などへの手紙や電話などご希望があれば対応できるようにしている。年賀状は利用者が自ら書いて出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はフロアにある大きな窓から外の景色を時折眺めて、のんびりとくつろいでいたりする。また利用者の動線確保のため余計な物の配置をしないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が間に入るようにして利用者同士が上手く交流できるようにしている。また、TVの前にソファを設置してゆったりと気の合う者同士が話しながら過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に家族や本人と相談して自宅で使用している物や好きな物を持ってきてもらったりしている。ご本人が居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており廊下には手すりが取り付けられている。また、ドアは引き戸になっており、利用者自身が自ら開け閉めできるようにしている。		